

【生薬名】 麝香 *MOSCHUS*

【起源動物】 原麝ジャコウジカ *Moschus moschiferus*

林麝 *M. berezovskii*、馬麝 *M. sifanicus*



【科名】 シカ科 *Cervidae*

【別名】 元寸香、当門子、臍香、麝臍香

【薬用部分】 雄の腹部にある香囊の分泌物を乾燥した物

流通品は玉麝香写真㊟と身麝香写真㊟(当門子ともいう)

【主成分】 環状ケトン体ムスコン、コレステロール、ステロイドホルモン様物質

【薬性】 気味は辛温、帰経は心脾に属す、強烈な香気がある

【効能】 ●開竅・活血・催生

●1日100～150mg、

●ムスコンには中枢興奮作用があり、睡眠時間短縮、肝臓の代謝酵素刺激、血圧上昇、呼吸数増などが知られている

●麝香は芳香性開竅の薬物で、よく嘔を辟け、濁を化し、閉を通じる。時に牛黄と共に用いて、熱病神昏、小兒驚厥、中風痰迷に適用する。嘔濁して竅穴の利せざる病などの危急の症に用いて効がある

●止痛、消腫の効が迅速であり、癰疽、腫毒、跌撲瘀痛などに内服・外用する

●血を活し血を散じる効もあり、婦人の催産、通経、化癥の処方中には必ず持ちうべき薬であるが、持続的子宮痙攣を起こし易いので妊婦、特に妊娠末期には禁忌

●麝香は煎じて使う事はなく中国でも日本でも製剤として使われるだけである

●麝香と牛黄の効能はよく似ているが異なっている

《麝香》：薬性は温で、穢を辟け、竅を開き、血を活し、腫を消し、経を通じ、痛みを止める

《牛黄》：薬性は涼で、熱を清し、竅を開き、毒を解し、痰を轄る。

【出典】 ●辟惡氣. 殺鬼精物. 温瘧蠱毒痢症. 去三蟲. 久服除邪. 不夢寤寤寐. (神農本草經上品)

●麝香 辛暖、善く開竅を通し、鬼を伐ち、驚を安んじ毒を解すこと尤も妙。(薬性歌)

【備考】 ●ワシントン条約に抵触する保護動物なので輸入は出来ない

●高級香水にも配合されている

【処方例】 ●奇応丸、救命丸、六神丸